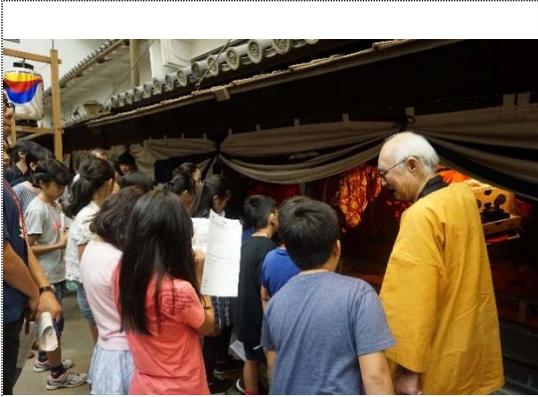


平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28216 博物館ガイドになって、日本の昔の住まいを外国人に教えてあげよう！



開催日：平成28年8月21日(日)
実施機関：大阪教育大学
(実施場所) (大阪くらしの今昔館)
実施代表者：碓田 智子
(所属・職名) (教育学部教養学科・教授)
受講生：小学校5・6年生 25名
関連URL：http://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/topics/2016_07_09/201608_27.html

【1】実施内容

このプログラムでは、今昔館の町並み展示で昔の住まいの工夫、日本建築の匠の技、お茶の文化、外国語のあいさつなどのレッスンを受けて、博物館ガイドに必要な基礎知識を勉強しました。参加した小学生は、学生のサポートの下で、習った挨拶と身振り手振りや外国語の説明が書かれた写真パネルを使い、外国人のお客さんに町並みの「木戸門」や「火の見櫓」などを案内しました。



【2】実施の工夫

- ・小学生と外国人のお客さんとのコミュニケーションを補助できるよう、留学生や海外留学の経験を持つ学生に実施協力を依頼しました。
- ・小学生を4班に分け、各班に学生を2名配置することで、大学生と小学生の密な交流を図りました。
- ・大工棟梁(外部講師)による本物の大工道具を使った体験のほか、大阪くらしの今昔館の協力を得て、お茶の師匠によるお手前など、子ども向けではない本物の体験をしてもらえるように工夫しました。

【3】当日のスケジュール

○午前の部 (集合・開始)10:00

- ・ミニ講義「博物館ガイドになって、むかしの住まいとくらしを伝えよう」(研修室)
- ・大学生と一緒にアイスブレイク(研修室)
- ・レッスン1:江戸時代の町探検で、昔の住まいの知恵と工夫を学ぼう(展示室)

(昼食)12:00～ (研修室)

○午後の部 12:40～

- ・レッスン2:大工棟梁から匠の技を学ぼう (研修室)
- ・レッスン3:町家のお座敷で、和の文化「お茶会」の体験 (展示室)
- ・レッスン4:外国語のあいさつを勉強しよう(展示室)
- ・レッスン5:外国人のお客さんに日本の住まいと文化を教えてあげよう(展示室)
- ・修了式・アンケート記入・未来博士号授与など(研修室)

(終了・解散)16:30

【4】実施の様子

- ・ミニ講義のあと、レッスン1では、今昔館の江戸時代の町並み展示を大学生と一緒に探検。「木戸門」「ばったり床几」「火の見櫓」「天神まつりのつくりもの」「昔の台所」「裏長屋のくらし」などを、今昔館のボランティアさんに説明してもらって勉強しました(写真1)。
- ・レッスン2では、大工棟梁から匠の技を学びました。大工さんのカンナがけの後は木肌がツルツルになり、カンナ花が数ミクロンになることに、びっくり。その後、本物のカンナを使って、全員がカンナがけを体験しました(写真2)。
- ・レッスン3では、今昔館の町並み展示のお座敷で、くらしの文化を学ぶお茶会体験をしました。お座席に正座し、ちょっぴり緊張した雰囲気でお茶の先生からお手前のお作法を習い、お抹茶とお菓子を味わいました(写真3)。
- ・レッスン4では、留学生と留学経験を持つ学生から英語・中国語・韓国語の挨拶を教わり、博物館ガイドになる準備をしました(写真4)。
- ・レッスン5は、いよいよ今昔館の展示室で、外国人のお客さん案内です。今昔館には大勢の外国人のお客さんが訪れ、江戸時代の町並み展示を楽しんでいます。小学生は6~7名ずつの班に分かれ、まず折り紙の扇子づくりをして、外国人のお客さんとふれあいました。その後、学生のサポートの下で、習った挨拶と身振り手振りや外国語の説明が書かれた写真パネルを使い、外国人のお客さんに町並みの「木戸門」や「火の見櫓」などを案内しました(写真5、写真6)。
- ・参加した小学生からは、「日本の文化にふれて、とてもおもしろかった」「外国人のお客さんに折り紙を教えたことがうれしかった」などの声が聞かれ、好評でした。一緒に参加した保護者からも「江戸時代の大阪のくらしに興味をもただけでなく、海外から大阪に来られた人々に目を向けるきっかけになった」などの感想があり、充実した体験をしてもらうことができました。



写真1 江戸時代の町並み探検



写真2 大工棟梁の指導でカンナがけを体験



写真3 お座敷でお茶会体験



写真4 留学生らと一緒に外国語のあいさつ練習



写真5 台湾からのお客さんをご案内



写真6 韓国からのお客さんと交流

【5】事務局との協力体制

学術連携課が JSPS との連絡、受付対応、参加者との事前連絡、実施代表者との連絡調整、実施期間中の庶務、事後の事務処理等について、支援・協力を行いました。

【6】広報活動

事務局との協力体制と下記の広報活動の結果、参加申し込みが早くからあり、早々に定員を確保しました。

- ・広報室が本事業に関する HP を大学のサイトに掲載
- ・小学校へチラシを配布
- ・大阪くらしの今昔館にチラシを配架
- ・朝日小学生新聞から掲載の問い合わせがあったので承諾しました。
- ・大阪市立住まい情報センター「住むまち大阪スタイル人」のウェブサイト募集に掲載

【7】安全配慮

- ・実習中は、参加の小学生を4班に分け、教員と補助学生が2名ずつ付き安全に周到な注意を払いました。また、大工体験では、子ども用の軍手を用意してカンナがけを実施しました。
- ・実施者・実施協力者・受講者全員が、傷害保険に加入しました。
- ・実習終了後も、保護者のお迎えの確認をし、安全確保に十分配慮しました。

【8】今後の発展性、課題

- ・一日に多くの内容を詰め込んだため、一つひとつの体験時間がやや短めになってしまいました。二日に分けてのプログラムを実施し、子どもたちが学んだことを振り返って発表する時間を盛り込むと、さらに充実したプログラムに発展すると思います。
- ・住まいの文化を外国人のお客さんに伝える写真パネル(4カ国語の解説)については、サイズや文字を大きくするなど、工夫の余地があると感じました。

【実施分担者】

長谷川ユリ 国際センター・教授

【実施協力者】 _____ 10 名

【事務担当者】

濱岡 美乃 学術連携課 研究協力係・係員